

14. 21-989

1.21



1200501164315

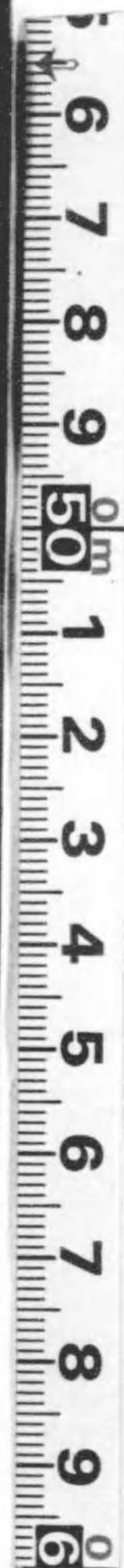
989

台灣總督府林業試驗所事報第二十四號

蘭領東印度產單寧資材以就て

同所編

山田金治



始





臺灣總督府林業試驗所  
事報 第二十四號

蘭領東印度產單寧資材に就て

山田金治

南支南洋第一八四號  
昭和十五年十月十九日

發行所寄贈本

## 蘭領東印度産單寧資材に就て

以下記述する蘭領東印度産單寧資材に關する記事は特に

明記せる部分を除き主として左記文献に據れるものなり

ガムビール及びマンダローン

Rovam, P. A.- De plantarlijke loonmiddelen van

Overzeesch Nederland en de beteekenis orvan voor de

Wereldmarkt. (Berichten van de Afdeling Handelsm-

useum van de Kon. Vereeniging Kolonial Instituut

No. 105, 1936)

ワットル皮

Spoon, Ir. W.-Wattle-bast op de Europeesche markt

(Berichten van de Afdeling Handelsmuseum van de

kon. Vereeniging Kolonial Instituut No. 137)

テキユガムビール、マンダローン、  
ビルガロール系(カシワ、ヴァロニア、ミロバラン、  
デイヴィー、スマツク)

### ニ、ガムビール

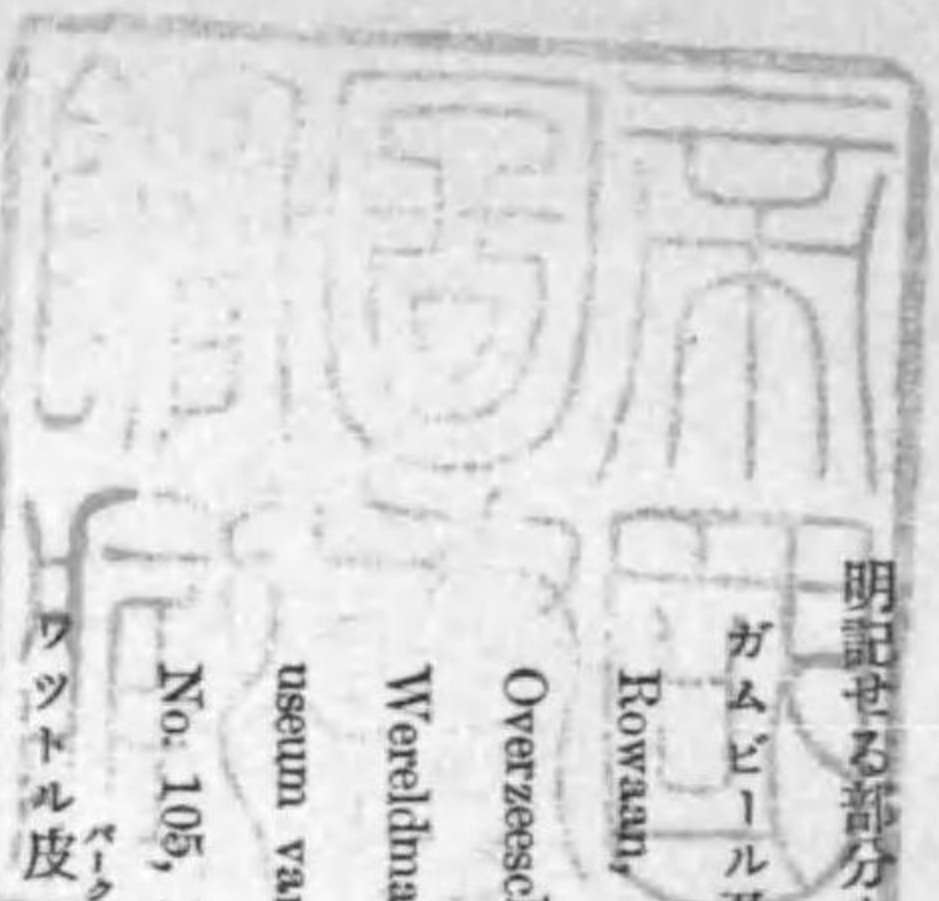
蘭領東印度に於けるガムビールの産額  
蘭印に於けるガムビールの生産統計次の如し。

年次別	粉末ガム ビール	角型ガム ビール	計
大正一〇年	1	1	2
同 一一年	1	1	2
同 一二年	1	1	2
同 一三年	1	1	2
同 一四年	1	1	2
昭和元年	404	307	711
同 二年	401	293	694
同 三年	624	293	917

### 一、單寧の分類

單寧を其の性質によりて左の二種に類別する。

ピロカテコール系(ケエブラツキヨ、ワットル、カ



同四年	五二六	一八六	七一五
同五年	三六五七	三〇二	六六九
同六年	四二九六	一七〇〇	五七九六
同七年	三二八	一九五	五三三
同八年	三六四二	一八六四	五三〇六
同九年	三五五五	二二九五	五九六〇
同一〇年	三〇三	二〇五五	五八七七

備考 一バレルは五立方呎(八分一噸)

蘭領東印度に於けるガムビールの産地

蘭印に於けるガムビールの産地左記の如し。

ガムビールは茜草科に屬する一種の蔓莖植物にして之れを刈取り煎液を煮詰めたるものを糞目型に切りたるものを Cube gambier (角型ガムビール) と呼び粉末にしたるものを粉末ガムビールと言ふ。糞草用單寧として良質なるも本邦では主として仁丹等の收斂薬に用ふるに過ぎない。本島にも角型のものを輸入し甘密と稱し檳榔子と和して嚙嚼用に供したるも近年需要は激減した。

産地	七	八	九	一〇
同	七	八	九	一〇

イ 粉末ガムビール

Tandjong Balei (S O K)	二七六	三〇九	三〇七	三二五
Tandjong Balei (Riouw)	五二	三〇	四八	五五
Sampit	二〇	二	一〇	一

ロ 角型ガムビール

Tandjong pinang (Riouw)	五九	九七	一三六	一三九
Pen aeba (Riouw)	五〇	六三	六九	五五
Paken barae (S O K)	一四	一八	三〇	三三
Padang (S W K)	一〇	二	一八	三三

備考 一バレルは五立方呎(八分一噸)

即ち粉末ガムビールは Tandjong Balei 最も多く角型ガムビールは Tandjong Pinang 最も多きを知るのである。

ガムビール仕向地別輸出統計

仕向地別	七	八	九	一〇
同	七	八	九	一〇

14 2 イ 989

イ 粉末ガムビール

英 國	一三三	一五六	一三三	一三三
米 國	七九	九六	九六	一五四
シンガポール	五三	六〇	四七	六六
ド イ ツ	三三	一八	一七	七
佛 國	一四〇	六	八	六
オランダ	一〇三	七	三〇	三

ロ 角型ガムビール

シンガポール	一七四	一七六	二二五	一八七
彼 南	一五	二	一五	一六
英 國	一〇	三	三	一

即ち輸出さるゝものゝ多くは粉末ガムビールにして角型ガムビールと共に英國に仕向けらるゝもの最も多く之れに亞ぐは米國である。

三、マングローブ

マングローブ樹皮は古來本邦に渡來し紅皮或は丹柄と稱するものにして之れを煮詰めて製せるエキスをカツチと呼び現今主として漁網の防腐染色料に用ひられ

昭和十二年に於ける輸入百七十二萬六千五百斤、此の價格二十九萬八百六圓に達した。我が國へは主として英領北ボルネオのバカオのバカオカツチ會社の製品を輸入するも、此のものはエキス中に鹽分殘留し爲めに糝革には適せざるものとされて居る。

蘭領東印度に於けるマングローブ

樹皮輸出統計

年次	バカオ	ギチン	計	カツチ
大正一〇年	一	一	八七九	八〇〇
同 一一年	一	一	一一〇	一三〇
同 一二年	一	一	一七四	一三三
同 一三年	一	一	一五〇	一四一
同 一四年	一	一	一三九	一四五
昭和元年	一四一	六二	二〇三	一七三
同 二年	一七〇	五二	二二二	一三二
同 三年	一〇二	七〇	一七二	一三八
同 四年	九一	二六	一一七	一五
同 五年	五九	三三	九二	七

同六年	六七三	三三三	一〇三三	一七
同七年	四三六	四七三	九三〇	一
同八年	二〇三	三九三	五八五	一
同九年	二八八	二九〇	五八八	一
同十年	三六六	—	—	一

備考 バカオ及びチンギなる名稱を有するヒルギに左記の種類がある。

Ting 又は Bakan No. 2 として輸出せるもの (アカバナヒルギ) マレーにて Tengah 及び  
 Bakau itam, B. korap, B. merah (オホバナヒルギ)  
 Bakau akik, B. akht, B. muijak, B. Poethi (Phizophtora coriugata)  
 (藤岡光長氏マレー半島、セレベス、スマトラ及爪哇諸島視察復命書)

蘭領東印度に於けるマングローブの産地

種別	年次	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
バカオ皮	Idi (Atjeh)	二〇八	一四六	二四三	二九四
	Langsa (n)	一五七	五〇	一三〇	一四
カカオ皮	Makassar	—	—	—	六二
	(セレベス)	—	—	—	—

即ちバカオ皮は最も多く彼南に仕向けられ又近年は支那へも多く輸出されチンギ皮は近年支那にて多く需要さるゝことが分る。

四、爪哇産ワツトル樹皮

爪哇にありては最近五年來ワツトル皮樹の造林著しく増加し山林局にても本樹を造林樹種中に加へた私有林にありては珈琲園、茶園及びキナ園等に於て庇蔭及び表土流出防止の爲めに造林され其の標高は少なくとも一、〇〇〇米以上なることを要す。

爪哇にて生産せる樹皮六種をオランダ及びドイツへ送り南阿産のものと比較分析したるに爪哇産のものは

二、爪哇産ワツトル樹皮分析表

要素別	爪哇産			南阿産		
	%	%	%	%	%	%
皮未吸収法ニヨル含量	三九	三五八	三三二	三六八	三〇〇—四〇〇	三六二
可溶性非單寧	九三	一〇六	一〇七	七三	九三—一〇〇	二一九
不溶性分(濾過法)	三九〇	四三二	四六四	四三一	四二四—四七〇	四六五
水分	一一九	一〇五	九七	二三八	二二四—九〇—二二〇	二〇六

Langsa	四一四	三三三	一八七	—
Idi	四三	三九七	六二六	—
マカッサル	二六	九二	一五四	—
スラヴァヤ	—	—	三七	—

即ちバカオ皮を最も多く産するは Atjeh にしてチンギ皮の主産地は Langsa である。兩種樹皮を通じ蘭印に於けるマングローブ樹皮の主要なる産地は Idi 及び Langsa の兩地である。

マングローブ皮仕向地別輸出統計

種別	仕向地別	年次			
		昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
バカオ皮	彼南	二五九	一四〇	一六三	一九五
	支那	三七六	元	二二	—
チンギ皮	香港	五五一	四三三	六〇〇	二二九
	支那	九二六	三三三	四四六	—
その他	香港	六三	一七三	五五	—
	支那	七三	—	六三	—
その他	香港	二五七	一三〇	一三三	—
	支那	一四六	五二二	六二四	—

産地が多湿の結果、乾燥及び貯蔵完からざりし爲め色澤の點に於て標準品に及ばざりしを以て人工乾燥方法に就て考へられ又樹皮を粉碎し梱包して運搬する方法に對しても試験を實施した。

一、爪哇産ワツトル皮輸出統計

年次	總輸出量	内	
		日本仕向量	オランダ仕向量
昭和十一年	一五	—	—
昭和十二年	九〇五	六五三	二五二
昭和十三年	五五〇	—	—

可溶性單寧二分ノ一色黄	六三	五八	六〇	八〇	六五	七六	六六	五五	八八
可溶性單寧二分ノ一色赤	四三	三六	三八	五三	四〇	四	三五	三七	四二

以上表示したる數値により爪哇産ワツトル皮の含量は南阿産のものに比し遜色なきを知るも其の生産額は未だ微々たるものにして昭和十一年に於ける本邦へ輸入したるワツトル皮四千噸(別に「エキス」三千六百噸を輸入す)に比し未だ遠く及ばざるものたるを知り得るのである。

之れを要するに蘭領東印度は單寧資材供給地として

蘭領東印度より輸入する單寧資材  
單寧材料及びエキスにして蘭領東印度より本邦へ輸入するもの左表の如し。

種別	年次	總輸入		蘭印ヨリ輸入スル對輸入比率	
		數量	價格	數量	價格
單寧材料	昭和八年	三九六六	二四七〇六三	二六	100%
	同 九年	二二五九三	二〇九三二八六	三	0.01
	同 一〇年	三三三六八	二二六七一	一六	0.08
	同 一一年	三三三五五	一八四四三三	四三	0.08
	同 一二年	二八七七八	二七五二六八	七三	0.00
	昭和八年	一七六一六	二八八二一四六	六八	0.00
單寧エキス	同 九年	一九三三六	三〇六三七七六	四七	0.00
	同 一〇年	三三六〇六	三七八四八六八	四二	0.00
	同 一一年	二七六六一	四八九九〇四七	三九	0.00

同 一二年	三五七〇三	六七八六六七四	一〇九七	一九九三三	三〇六	二九三
同 一一年	二七六六一	四八九九〇四七	四三九	七四九三七	一五七	一五三

(大日本外國貿易年表)

右表に於て見る如く蘭印より我が國に輸入する單寧資材は其の材料(樹皮等)たるとエキスたるとを問はず其の量は言ふに足らざるものにして向後原地に於て生産量の莫大なる増加を來さざる限り本邦に對する重要なる單寧資材の給源地たり得ざるものと考へられる。

14 24  
589

11.2  
1  
989



終